



Section 01

ここを整う『和』の時間

Section 02

東京農業大学 × 浜町エリマネ
産学連携の取り組み

Section 03

浜町エリマネレポート Vol.25

Section 04

暮らしとドボク Vol.16

Section 05

新着情報

隅田川沿い、日本橋エリアの一角に位置する、日本橋浜町。
下町風情が微かに残る趣深い街並みに、最近では暮らしを彩る新たなカルチャースポットが続々と生まれています。

「BRIDGE」は、そんな浜町の魅力や変化を、まちの中の人に、まちの外の人に、発信していく地域密着メディアです。

住民と住民を。ワーカーとワーカーを。伝統と新風を。この小冊子が繋ぎ合わせる“橋”となり、浜町にさらなるシーンとワクワクを誘います。

About BRIDGE



江戸の風情を感じる日本橋浜町・人形町界限には、歴史ある老舗が数多く残ります。その一方で、現代の感性でその世界観を表現する場所も増え、まちを歩けば“和の心”に出会える風景があらこちに広がっています。お茶や甘味、酒に芸、空間に息づく日本の伝統と文化。昔と今が寄り添うように共存するこのまちの魅力を、今回は“和”のキーワードでたどりま。 「甘味」「体験」「夜」という三つの視点から、まちに流れる“和”の時間を感じてみてください。

甘味でまったり、和カフェ

老舗和装問屋の感性が描く
和 × コーヒーの匠のハーモニー

ボンタンカフェ BonTin Cafe

中央区日本橋久松町5-14
☎03-6231-1939

営/8:30~L.O.16:30
休/日曜 (詳細はInstagramへ)
Instagram @bontin_cafe



ドリップコーヒー ¥550 ~ / プリン ¥600



和装問屋「東京ゆかた株式会社」が運営するアンテナショップ「BonTin TOKYO」。店内に並ぶ和装小物を道しるべに奥へ進むと、「日本文化の深みを伝えたい」というオーナーの想いとこだわりが映し出されたカフェにたどり着きます。空間の核を成す藍のカウンターでは、バリスタが茶の湯を思わせる丁寧な手仕事で、コーヒーの香りと味わいを余すことなく引き出します。和の静けさに包まれながらいただく、凛とした一杯。有田焼の器に映えるプリンとのペアリングは、思わず笑みがこぼれるおいしさです。



蔵戸を開けて、昭和へ寄り道。
明治座正面の隠れ家カフェ

せんいち 千日カフェ

中央区日本橋浜町2-30-6 2階
☎03-5640-8568

営/9:00~L.O.17:30
休/日曜、月曜
Instagram @sennichi.cafe



冬限定 栗ぜんざい ¥1,300



著名人のコーディネートなども手掛ける呉服屋「日本橋 成匠」が営むカフェ。通りからは様子が見えず、どんなお店だろう?と気になっていた人も多いはず。もともとは水天宮の仮宮遷座に合わせ、妊婦さんの休憩処として“千日”限定で開いた店でしたが、居心地のよさが評判を呼び、今もその暖簾を掲げています。古い建具や骨董品は、オーナー・成平浩之さんのコレクション。どこか懐かしい昭和の面影に、時を閉じ込めたような温もりが残ります。器や素材にまでこだわった甘味を味わいながら、ゆるやかな時間をどうぞ。



和の心にふれる体験

和敬清風にしなやかに。
暮らしの延長で学べる煎茶道

げっくあん 煎茶道教室 月空庵

中央区日本橋人形町2-31-3 伊東旅館内
営/第2・4日曜 9:00~16:00

休/月曜~土曜
HP <https://www.gekku-an.jp>
お問い合わせ contact@gekku-an.jp



体験料: 1 回につき ¥5,000

黄檗売茶流の師範・遠藤霜空さんが伝えるのは、テーブルと椅子でのお手前を正式とする立礼式の煎茶道。難しいルールやマナーにとらわれず「純粹に茶を楽しむ」自由さこそが、この流派の大きな特徴です。お稽古は月に1~2回。基本的に一対一で行われ、自分の歩調でじっくりと“今”に集中することができます。師と生徒が向き合う一期一会の時間。無意識の日常を特別な非日常へと導く、かけがえのない日本の文化。普段、何気なく淹れる一杯のお茶も、所作と美意識を知ること心映る景色が変わって見えるはず。



飲む、味わう、体験する。
小さな一席に広がる和の世界

テ ソフ thé et soie

中央区日本橋人形町3-4-3
営/12:00~L.O.18:00

休/月曜
Instagram @the_et_soie



お茶とスイーツセット (緑茶・青大豆きな粉と白玉〜有機サトウキビ添え〜) ¥1,650



江戸時代、歌舞伎の芝居小屋が並んでいた歴史ある地に佇む一軒の茶処。店主・米沢美智子さんの「長く受け継がれてきたお茶の営みを今に伝えたい」という想いが漂う店内では、店主による最初の一服を手本に、二煎目からは自分の手で湯を注ぎ、味の移ろいを体感するスタイルで煎茶を味わえます。飲むだけでなく食す楽しみへとお茶を昇華させた懐石と、職人が一枚ずつ手焼きで仕上げる香ばしい最中などの甘味で至福のひと時。また金継ぎや和菓子作りのワークショップも開催しており、重なり合う日本の文化を五感で受け取ることのできる場所です。



和 × 酒で特別な夜

伝統と日常が出合う。
舞と酒に心酔するお座敷Bar

bar miyabi

中央区日本橋浜町3-26-11
☎090-2509-7592

営/20:00~L.O.23:30
休/日曜、祝日
Instagram @miyabi32611



駒ヶ岳 2024 エディション 長野 ¥1,800(グラス) ※別途チャージ料 ¥1,000



扉を開くと広がる、松羽目の舞台と柔らかな灯り。日本舞踊 尾上流 師範・尾上嘉之介さんが店主を務めるこちらは、目の前で日本舞踊を鑑賞しながらグラスを傾けられるコンセプトバーです。何より心惹きつけられるのが「踊りのメニュー」。プライベート感たっぷりの空間で店主自らが舞う数分の一幕は、手の先や視線の先までもが見る者を静かに引き込みます。三味線や踊りが日常に溶け込んでいた頃のまちの記憶を取り戻したい。その願いが脈打ち、伝統芸能を肩肘張らず楽しめる場として浜町に新しい風を運んでいます。



ネオクラシックなBarで
時を巡り、日本を旅する

Bar RENri

中央区日本橋富沢町3-6 安川ビル1階
☎03-6810-8503

営/16:00~0:00
休/火曜
Instagram @tetta_bar_renri



RENri ¥2,300



新進気鋭のオーナー・宮之上哲太さんが手掛ける、明治の趣を宿す和洋折衷バー。ギャラリのように並ぶグラスや陶器、各地の特産品や伝統工芸を取り入れた“都道府県”カクテルなど、静謐な空間のどこを切り取っても深き和の感性が薫ります。店名を冠したカクテル「RENri」は、かつて五街道の起点としてにぎわったこのまちへのオマージュ。末広りに伸びる連理の枝のように、ここから新たな縁が結ばれることを願って生まれた一杯です。ノスタルジックな雰囲気にも包まれながら、思い思いのひとときを味わってみて。



東京農業大学で緑や”グリーンインフラ”を研究する学生たちが、日本橋浜町エリアマネジメントとともに進める「産学連携プロジェクト」。まちを歩き、地図をひもときながら、浜町の構造や気候、歴史、飲食店の数や人の流れなどを丁寧に観察し、この街の魅力と未来の可能性を探っています。学生たちの学びの場であると同時に、浜町をあらためて見つめ直すきっかけにもなっているこのプロジェクトの様子をご紹介します。

まちの人との交流の場、浜町マルシェに出店！

学生たちは実際に浜町のイベントに関わり、人と人のつながりやまちの魅力・課題を探りながら研究をまとめています。10月13日(月祝)にトルナーレ広場で開催された「浜町マルシェ」では、お客様にハーブを使った飲み物を提供するブースを展開。その場で淹れたハーブティーやジュースを楽しみながら、温かな交流が生まれました。学生たちの取り組みについて、当日ブースを担当された糟谷さんにお話を伺いました。

「今回の出店では、ハーブの風味を気軽に楽しめる形で提供しました。使用したハーブはミント・レモングラス・しその3種類で、いずれも家庭のプランターで育てやすいものです。大学ではプロジェクトの一環として畑を育て、ハーブのほか唐辛子や陸稲などさまざまな作物を栽培し、研究に活かしています。これまで造園空間のデザイン設計から生物学的な知見まで幅広く学んだのち、現在はさらに俯瞰的な視点でまちの緑の設計を研究しています。しかし、地図や資料だけをもとに研究や提案を行うのでは、どうしても現実性に欠けると感じていました。そこで今回の出店は、浜町の方々と直接関わることで、実際のまちのことを理解する貴重な機会となりました。浜町愛にあふれる強いコミュニティを起点に、さらに多くの人で賑わう街を目の当たりにし、人の繋がりが街づくりに大きく影響することを実感しました。今後はそのつながりを誘発するような場づくりを、緑を活用して行いたいと考えています。」



糟谷 奏海さん
修士課程で造園学を専攻し、造園計画・設計を学びながら、緑地の環境的価値を可視化し、保全や緑化政策の充実を目指す研究に取り組んでいる。



まちを学び、歴史をひもとく——水天宮での特別対談

産学連携プロジェクトでは、地域の歴史についての調査も行っています。まちのルーツを探り、歴史的な視点から現在の浜町の成り立ちを考察する中、ト半(ぼくはん)さんは、水天宮の歴史にも関心を寄せ、学びを深めています。今回はその一環として、水天宮で神職を務める有馬さんにお話を伺いました。



有馬 里佳さん
2021年に神職に就任し、現在は有馬家第18代当主として水天宮を守る。水天宮で生まれ育ち、父は前司司を務めた。神職の傍ら水天宮で宗教学・神道学を専攻し、現代社会における神道のあり方や参拝者との心のつながりについて研究している。

ト半 響さん
造園学専攻の修士2年生。学部時代は考古学を専攻し、遺跡の発掘調査に携わってきた経験を活かし、現在は文化財や庭園・遺跡の保存や整備・活用を主題に研究を進めている。実家がお寺ということもあり、寺院の歴史にも興味がある。

ト半 江戸時代、大名屋敷が立ち並んでいたこのまちには、清正公寺や浜町神社など、屋敷内に勧進された寺社が点在しています。水天宮も、もともとは邸内社だったと伺いました。

有馬 ももとはは久留米城下にあった水天宮を、藩主・有馬頼徳が江戸の上屋敷に分祀したのが始まり。有馬家では代々、水天宮を大切に信仰していて、参勤交代で江戸に滞在中でも同じようにお参りをしたいという願いがあったようです。

ト半 屋敷内に設けられた神社が、これほど広く信仰を集めるようになったのは、どのような経緯があったのでしょうか？

有馬 ある時、当社の鈴の緒を腹帯に用いた方がたいへん安産だったそうで、その話がたちまち評判に。けれど、屋敷内の神社ですから中に入ることはできないため、何とかその御利益にあやかうと塙の外からお賽銭を投げ込まれるようになったんです。当時の記録によると、けが人が出るほどの混雑ぶりだったとか、それを受けて毎月五日に門を開いて参拝を受け入れるようになり、水天宮の信仰が広がっていきました。一言で申し上げると、ロコミなんです(笑)。



ト半 いつも、多くの参拝客でにぎわっていますよね。神社というと森に囲まれた静かな場所というイメージがあるのですが、水天宮はどこかキラキラとした印象を受けます。

有馬 江戸鎮座200年の記念事業として、2013年から2016年にかけて土地の免震工事と社殿の建て替えを行いました。前官司である父が強く願っていたのは、神社を“安心してお参りできる場所”にすること。安産祈願の神社ですから、妊婦さんやご家族、そして赤ちゃんが穏やかな気持ちでお参りいただけるようにという想いが込められています。

ト半 広々とした待合室やスロープなど、随所に参拝客への配慮が感じられます。

有馬 戌の日ということで、本日も多くの妊婦さんがお参りにいらしています。安心して参拝できるように、看護師にも来ていただいているんですよ。私たちの一番の願いは、皆さまが元気に帰ってくださること。江戸の頃から変わらず、水天宮の礎として息づいている想いなんです。

ト半 最後に、水天宮についてまだあまり知られていないお話があれば教えてください。



有馬 当社でお祀りしている實生辨財天の額に筆を入れたのが私の曾祖父・有馬頼寧。戦後、日本の競馬制度を再建した中心人物で「有馬記念」の創設者でもあります。祖父は直木賞作家の有馬頼義。境内にある灯籠には、社殿に向かって左側に頼義、右側には前官司だった父・頼央の名が刻まれていますので、ぜひご覧になってみてください。

ト半 神社の歴史だけでなく、有馬家の歩みにも壮大な物語を感じます！そして、現在の当主が有馬家18代目となる里佳さんというわけですね。

有馬 私はまだ、これといった実績はありませんが…50年後に期待してください(笑)！神社は、地域や人々に支えられてこそ成り立つものです。有馬家の歴史とともに神社を守り、たくさんの方にお参りいただいて、100年後も愛される場所にしていきたいですね。

水天宮をもっと知ろう！

参道両脇の狛犬は、青銅製の立派なもの。水天宮のふるさと福岡県久留米市でブリヂストンを創業した、石橋正二郎氏が寄進しました。向かって左側の狛犬は子犬を抱いたお母さんかも？



水天宮の祭神は、安徳天皇、建礼門院、二位の尼の親子三代。家族の神がそろうことから、子供に親しみのある、家族みんなにやさしい神社として知られています。



安徳天皇肖像画 提供：泉涌寺

(一社)日本橋浜町エリアマネジメントの活動記録

日本橋浜町界隈をより魅力的なまちにしようと2020年4月に発足。地域の方と連携し、まちの交流促進・プロモーション・環境整備の活動を行なっています。ここでは活動の一部をご紹介します！

8月31日(日)
浜町ベジフェス 2025



8月31日や・さ・いの日に合わせて浜町ベジフェスをHama Houseで開催しました。ミニトマトすくいやピーマン釣り、野菜流しなど、楽しく野菜に触れ合えるコンテンツを多数ご用意。カゴメ(株)の社員による野菜クイズや謎解きも大盛況で、会場は多くの子どもたちで賑わいました。来場者は700名を超え、終始賑やかな雰囲気になりました。

9月24日(水)～10月5日(日)
第3回 浜町いきつけ探し



浜町・人形町界隈で、お酒の美味しいお店を巡りながら新たな“いきつけ”を見つけるはしご酒イベントを開催しました。今年は昨年より参加店舗が増え、全42店舗が参加！各店のおすすめの一杯と一品を楽しめる内容で、秋の夜風が心地よい中、昨年を上回る多くの方にご利用いただきました。

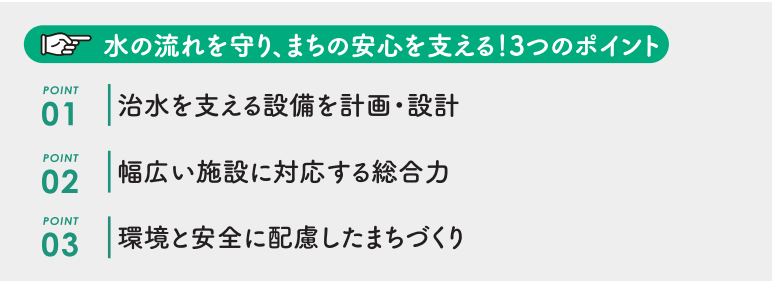
10月13日(月祝)
HAMACHO Dog Fest 2025



今年で6回目となるHAMACHO Dog FestをHama Houseとトルナーレ緑道で開催しました。ミニアジアリディやしつけゲームに加え、補助犬についての講演など学びのあるプログラムも実施。同日に開催された浜町マルシェからも多くの方が訪れ、約1,850名の来場者で賑わいました。

流れを読み、未来に挑む。まちの安全を設計する“水のエンジニア”

川やダムへのゲート、排水機場のポンプ。まちを水害から守るための設備を設計しているのが、酒井 亮さんが所属する(株)建設技術研究所の機電設備部です。発足から5年の若い部署ながら、近年の気候変動による大雨被害の増大に伴い“水の現場を支える”仕事の重要性は一層高まっています。水の流れのように、絶えず技術を磨き続ける。その真摯な追求心がまちの未来を育んでいます。



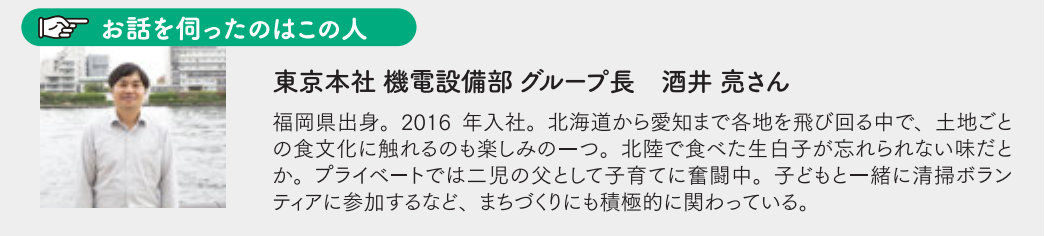
「ダムや河川、処理場などに配置される治水対策用の機械・電気設備。その新設または更新工事の計画や設計を担うのが、機電設備部です。水害で川が溢れそうになったとき、まちへの浸水を防ぐため強制的に排水するポンプやゲートが、その代表的な設備の一つ。こうした設備は意外と身近な場所にあって、浜町公園の裏手、隅田川沿いにある東京都下水道局の施設『浜町ポンプ所』は皆さんも目にしたことがあるはずです。機電設備部の仕事には高度な専門知識が求められますが、それをダム・河川・下水道といった多様な施設に応用していく点では、ゼネラリストとしての視点も欠かせません。また、自然を相手にする仕事だからこそ、環境を壊さず、安全かつ効率的に工事を進める柔軟な発想も必要です。普段はあまり気に留めない場所であっても、“水の流れを守る”ことが安心して暮らせるまちづくりにつながる。その使命を胸に、これからも一つ一つの設計に誠実に向き合っていきたいと思います。」



調査を行った磨治ダム(旭川)



浸水被害からまちを守る浜町ポンプ所の放流ゲート



「暮らしとドボク」とは？
浜町3丁目にオフィス構える(株)建設技術研究所の社員、通称けんぎんさんをお迎えし、浜町での暮らしに役立つであろう暮らしとドボクにまつわる知識を、建設コンサルタントのマニアックな視点を通してお届けする連載です。毎号、異なるゲストをお迎えしてお届けします。

松平健×コロッケ45周年特別公演

2026年1月10日(土)～25日(日)
開演時間:11:00/12:00/16:30

2026年の幕開けは時代劇とエンタメショー！最強タッグによる豪華ステージをお楽しみに！
第一部 「暴れん坊将軍THE STAGE2 狙われた将軍」
©東映
脚本・演出:細川徹
第二部 「マツケン・コロッケのゴールデンパラダイスショー」
構成・演出:細川徹
出演 松平健 コロッケ
辰巳ゆうと/伊藤純奈 荒木健太郎 岡田翔大郎 真砂京之介 潮野和紀 大原万由子/白石まるみ 笠原章也

料金:S席(1階席・2階席) 14,000円
A席(3階席) 7,000円

明治座
中央区日本橋浜町2-31-1
☎03-3666-6666 (明治座チケットセンター)
※営業時間 10:00～17:00
https://www.meijiza.co.jp/info/2025/2025_01_02/

※各種イベントの情報は予告なく変更する場合があります。詳細は各公式サイトをご参照ください。

トワイライトアフタヌーンティー
～選べるメインディッシュとバーテンダー
選りすぐりの逸品カクテルの饗宴～

ホテルのメインバーで楽しめる人気のトワイライトアフタヌーンティー。メインディッシュは和牛ローストビーフかシーフード「プレゼ&ロースト」から選べ、豊富に取り揃えたカクテルには冬の寒さを和らげるホットカクテルも！大切な方とのひとときにぜひ。12月23日～25日はスパークリングワインタワー付クリスマストワイライトアフタヌーンティーが登場！

料金:10,000円
(クリスマストワイライトアフタヌーンティー:13,000円)
※料金には消費税・サービス料(15%)が含まれます。
※2名様より承ります。※フリーフローは2時間制となります。ドリンクのラストオーダーは15分前です。※2日前17:00までに要予約。

ロイヤルパークホテル地下1階 メインバー ロイヤルスコッツ
中央区日本橋蛸殻町2-1-1
☎03-5641-3600 (予約専用ダイヤル 9:00～19:00)

期間:～12月31日(水)
最終入店:19:30
定休日:日・祝日

2026年1月18日(日) 10:00～17:30
2026年1月19日(月) 10:30～19:00

浜町マルシェ開催！

3ヶ月に一度開催される浜町マルシェは、日本各地から集まる約30店舗に加え、地元商店会も出店する地域共生型の都市型マルシェです。当日は、旬の野菜や果物、ジャムなどの加工品、雑貨などが並びます。皆様のお越しをお待ちしております！

(一社) 日本橋浜町エリアマネジメント
中央区日本橋浜町3-10-6
☎03-6661-7084